三心を磨く

学校だより No. ４
令和８年１１月４日（水）発行
須坂市立東中学校
文責：　（教頭）
https://azuma.suzaka.ed.jp/

校長講話　「東祭」を振り返って

＜1 年生のみなさんへ＞



１年生のみなさん、初めての中学校文化祭はどうでしたか。

最後のテーマソングを歌う場面で、心から楽しんでいる１年生の姿はもちろん、その背後にある２・３年生のあたたかな支えを強く感じました。自分たちだけでなく、後輩の居場所をちゃんと作ってあげられる先輩たちがいて、それを受けて安心して全力で楽しむ１年生がいる。そんな東中のあたたかい空気がとても嬉しかったです。

２年後、みなさんがこの伝統ある東祭を引っ張っていくことになります。そして来年は記念すべき 70 周年、それが終わるといよいよ東中学校を閉じるためのクロージングの準備が始まる、そんな時期を迎えます。自分たちの代ではどんな東祭にしたらよいか、先輩たちの姿を参考にしながら、今から色々なアイディアを考えて温めてほしいと思います。１年生の皆さんは、まだ来年も、今の２年生の作る東祭を見ることができますよ。

＜２年生のみなさんへ＞

さて、今年の２年生は、いわば、どら焼きの「あんこ」のような役割を果たしてくれました。上下の生地（先輩と後輩）の間で、外側からはあまり見えなくても、しっかりつないでくっつけてくれています。しかも外側の生地とは全く違う素材でありながら、上手になじんでしっかり存在感を示しています。



どこでそれを感じたかというと、例えばこんな場面です。

チャレンジランキングで、東中音頭の輪の中に小学生を優しく誘い、笑顔で目を合わせる姿や、学級一丸となって本気で３年生に挑み、１位を狙い競技に熱中する姿がありました。音楽の授業で、全校合唱の『大地讃頌』を歌っていました。全校合唱の歌を何となく歌うのではなく、一人ひとりが存分に、自分の表現の仕方で、「自分の『大地讃頌』」を作り出していました。２年生のエネルギーを感じ、たくましいなと感じました。

普段から学校の中心となって動いている３年生にとってみれば、後輩である２年生がここまで熱中し、全力で取り組む姿を見ることは、「自分たちがやってきたことは間違いじゃなかった」「一緒に頑張ってきてよかった」という心からの手応えや喜びにつながるはずです。また、１年生にとっても、自分たちが全力で楽しむことが自然と下から上へと良い波及を生むんだという、素敵な背中を見せてくれる存在になっています。



昨年展示された個性豊かな「煮干し」が、この一年間でさらに個性を放つようになった今の２年生。本当に頼もしい限りです。

＜3 年生のみなさんへ＞

今年の３年生は、東中で初めての単級クラスとなり、自分の学級の仕



事と学校全体の仕事を同時にこなすのは本当に大変だったと思います。でも、たくさんの感動を与えてくれました。

今年の３年生が考えた「あいさつスタンプ」は、「つながる」ための具体的な行動をオリジナルで考えたナイスアイディアでした。テーマを掲げて終わりではなく、みんなが笑顔になれる具体的なアクション（行動）まで落とし込んでくれたことに感心しました。

そして、なんといっても合唱です。来賓の方々からも「さすが３年生。歌を聴いていて自然と涙が出てしまいました」と温かいお言葉をいただきました。

文化祭の合唱では、一人ひとりに素晴らしいストーリーが生まれていました。昨年の３年生の女声に憧れ、「あんなふうに歌いたい」と頑張って、自分たちの力で美しい声を響かせた女子たち。そして、自分のことだけでなく周りの様子にも目を向けながら、自分の持ち味をしっかりと発揮しつつ、お互いの声に耳を傾け、合わせていく……。そうして一つひとつの音が重なり合って生まれた「調和」の美しさに、私は胸が熱くなりました。男子の力強くどっしりとした響きと、女子のきれいなハーモニーが自然と噛み合っていく姿は、とても素敵でかっこよかったです。また、昨年以上に良い伴奏をしたいと６月からひたすら練習を重ねたピアノの田中さんをはじめ、一人ひとりの歩みに確かな学級の歴史と成長を感じました。

さらに、文化祭の２週間後に行われた市内の３年生が集まる「親善音楽会」でも、本校の合唱は講師の先生から絶賛されました。「はつらつとして気持ちの良いハーモニーが響いた」「『アイコトバ』はハーモニーに厚みがあり、歌を通して『いい歌だな』と思わせてくれる美しい合唱だった」と評価していただきました。

３年生を見ればその学校の様子がわかる、「学校の顔」として立派に成長してくれています。地域の方が３年生を見て東中を褒めていただいた嬉しさと同時に、立派にやりきってくれた ３ 年生に「ありがとう」と心から感謝を伝えます。



＜これからの東中に向けて＞

もう一つ、文化祭で嬉しかったことがあります。それは「君スタ」です。

今年は３年生と２年生の２つの発表がありましたが、個性が爆発していて本当に楽しかったですね。東中の良いところだなと思いました。東中の仲間が、どんな個性も認めて応援してくれる、「君スタ」はそんな温かい気持ちに包まれた場でした。

先日、総合的な学習の時間で「プレイエルに触れてみよう」というプレイエルチームからのお誘いがありましたが、そこでピアノを演奏してくれた生徒がいたそうです。皆さんはきっと、他の友達が知らない趣味や技能、得意な能力を持っていると思います。東中の仲間の中で、自分の個性をどんどん出していってほしいなと思っています。生徒だけでなく、先生たちも一緒です。そんな皆さんの個性爆発の場を、文化祭に限らず、どんな形になるか分かりませんが、これからも作れたらいいなと思っています。





東祭は、一人ひとりの心に秘めた目標を実現させてくれる、そんな素敵なストーリーが生まれる文化祭です。素晴らしい時間をありがとうございました。

さて、１０月も半ばにさしかかりました。秋が深まりを見せていますね。この時期は朝夕の気温が下がり、引き締まった空気を感じますね。過ごしやすく、色々なことに集中できる時期です。東祭に向けて全力投球してきたみなさん、今度は勉強や読書、習い事など自分自身を高めたり深めたりすることに、エネルギーを注ぎましょう。２学期後半も自分にとって良い時間となるよう、それぞれが頑張ってほしいと思います。

校長講話を聴いて（生徒からの感想）

１年生の感想より

・思ったより先生達って色んなところ見て思ってくれているんだなって思って来年も準備を頑張って来年の東祭も楽しみたいって思った。
・校長先生が今年２年生はどら焼きのあんみたいだと言っていた。来年は、先輩のことも助けて後輩を盛り上げることのできる先輩になりたいです。
・校長先生の言う通り、東祭で２・３年生がたくさんサポートをしてくれていることなど本当にその通りだと思いました。私も、初めての東祭とても楽しめたと思います。
・東祭を全力で楽しむことができたのは、２年生や３年生の先輩方が支えてくれたからだと改めて感じました。来年は、後輩もできるので全校のみんなが楽しめるように支えられるようにしたいです。これからの季節は勉強にも集中できる時期にもなるので、復習をしっかりとしていきたいです。
・来年の東祭は、どら焼きのあんこのようになれるように今年の２年生を見習って、来年の１年生のお手本になれるようにしたいです。
・どら焼きの話で、２年生は１年生と３年生をつなぐあんこの役割をしているという話があって、来年は後輩が入ってくるから来年は自分たちが１年生と３年生の間を繋ぐ役割ができたらいいなと思いました。
・東祭で２年生と３年生の先輩方が期末テストも近かったのに東祭を成功させるために一生懸命にどうしたら楽しんでもらえるか考えていてすごいと思いました。私も２・３年生になったら見習いたいと思います。

２年生の感想より

・東祭の時に自分でも気づかなかったところを校長先生は見ていたんだなと思いました。新しい気づきができました。
・自分は１年生から２年生の今まででたくさん成長したなと思う事がたくさんありました。
・東祭を振り返りたくさん褒めてもらったし課題ももらったから課題は直して良かったところは伸ばしていきたい。
・校長先生に「２年生はどら焼きのあんこのような存在」と言っていただいたので、来年は下級生を支える、どら焼きの下の生地になれるようにしたいと思いました。来年は私たちが東祭を中心に運営していくので、全校が楽しめる東祭が創れるようにしたいです。

・東祭について、たくさん褒めてもらって「嬉しいな」という気持ちと同時に、「３年生はやっぱりすごいな」という気持ちが出てきました。来年は３年生になるので、今年度の３年生を見習って生徒会長、副会長を支えて頑張っていきたいと感じました。
・東祭で校長先生はいろんな学年のたくさんの場面をよく見ていたので、少しうれしいなと思いました。

・役員の人たちの計画・運営ももちろんだけど、１・２・３年生の全員の協力があってこその東祭だったなと改めて感じた。これからは勉強を頑張っていきたいと思った。
・２年生も陰ながら頑張ってくれていて嬉しかった。
・校長先生に東祭までの頑張りを褒めていただけて嬉しかったです。先輩方が繋いできたものを私たちも繋いだり、新しいものを残していけるように最後まで頑張ろうと思いました。親善音楽会では、いろんな人たちの前で緊張したけれど、このクラスの自分たちらしい合唱を見せることができてよかったと思いました。校長先生のお話を聞いて、今まで頑張ったことを続けていこうと思いました。
・校長先生のお話を聞いて思ったことは、初めての運営側に回る東祭がちゃんとうまくできてよかったなと思いました。３年生で、最後の文化祭なので君スタなどとにかく楽しんでできて、それを校長先生に褒めてもらって嬉しかったです。
・最後の東祭をクラスのみんなと協力して楽しめてよかったです。校長先生に、東祭で３年生が頑張っていた歌がよかったと褒めていただけたのが嬉しかったです。準備や当日の仕事などで大変なこともあったけど成功できて嬉しかったです。思い出して少し寂しい気持ちになったけれど、これからは勉強ができる時間が増えるので勉強を頑張りたいです。

杉浦 圭子さんによる平和学習講演会
「ヒロシマを知り、今を生きる」



１０月２９日の参観日に合わせ、元 NHK アナウンサーの杉浦圭子さんをお招きし、平和学習講演会を行いました。広島で生まれ、被爆２世として数多くの平和関連番組の制作に携わってこられた杉浦さん。現在は「被爆体験家族伝承者」の第１期生として、受け継がれた被爆体験と平和への願いを伝える活動を全国で続けていらっしゃいます。今回は、お父様である良治さんの生い立ちを通し、当時の体験や原子爆弾の恐ろしさ、平和の尊さについてお話しいただきました。

「原子爆弾が落ちると、昼が夜になって、人はお化けになる」（坂本はつみ作／詩集『原爆雲の下より』より）という衝撃的な詩の朗読で始まった講演。被爆された方が描いた絵や、広島の空に広がったきのこ雲の写真、被爆地図などを交えながら語られる言葉には強い説得力があり、当時の様子が目に浮かぶようでした。

講演の後半では、戦争で足を失いながらも、生涯をかけて日本が迷惑をかけた国々へ謝罪の行脚を続けられた沼田鈴子さんの生き様が紹介されました。「国籍や人種、性別、年齢、障がいの有無に関わらず、世界中のすべての人の命は等しく尊い――『みんな、大切なひとり』なんだ」 杉浦さんが最後に語られた言葉と平和への強いメッセージは、講演が終わった後も私たちの心に余韻となって響いています。

杉浦さんの講演を聴いて（生徒からの感想）

１年生の感想より

・ヒロシマのことについては今までたくさん聴いてきたけれど、改めて詳しく聴いて思ったことは、ヒロシマの出来事は全世界で感じ方が違うことが初めて分かったし、今家族との生活ができているのは当たり前のことじゃなかったんだなと思い、すごく勉強になった。このお話を日本中に広めることができれば、ずっとヒロシマの出来事が受け継がれていくのではないかと感じた。

・原子爆弾は思っていたより広い範囲まで被害があって、何キロ離れていても、やけどをしてしまうことがびっくりしました。杉浦さんのお父さんは、大火傷をした状態で、13 キロを二時間かけて歩いたのが本当に驚きました。今私は、学校に行けて、しっかり食べれているのは本当に幸せなことなんだなと思いました。今、世界に核兵器が 10000 以上あるのは怖いなと思いました。海外の人は、原爆のことを戦争を終わらせるためのものと捉えているのを知って、これから世界はどうなってしまうんだろうと少し不安になりました。平和になってほしいなと改めて思いました。

・話を聴いたりスクリーンに映される画像などを見たりしているうちに言葉に表せられないほどの感情になって途中から涙目になりながら見て聴いていました。戦後 81 年の今、どんどん寿命の関係で被爆者が減っていく中、私たちは被爆したことがないけれど本や広島現地に行ってそこでもっと何があったか、心に刻みたいと思いました。杉浦さんがもしいなかったら広島原爆や長崎原爆のことをよく考えなかったと思います。良い経験にもなったし私もできる限りに原爆のことを調べて後世に伝えていきたいなと思いました。

・今日のお話を聴いて、原子爆弾という爆弾で一瞬のうちに多くの人たちの命が奪われてしまうことを知った。わかりやすく私たちにお話しをしてくださってより戦争のこと知れました。幸せな毎日を送れているのは当たり前じゃないし、１日１日を大切に送りたいです。

・杉浦さん本人が被爆したわけじゃないのに被爆した人の気持ちをすごくわかっているように話していて、たくさんの人にお話を聴かれたのだとすごく伝わりました。お話を聴いて思ったことは、日本が苦しめていた国へ沼田さんが行って謝罪をしていたということです。沼田さんが戦争を始めたわけではないのに日本を背負って他国へ行き謝罪をするのはとても勇気のいることだと思うのでそこがすごいと思いましいた。沼田さんの思いを杉浦さんが私たちに伝えてくれることで沼田さんの思いが私たちにも伝わりました。少ない被爆者の中で、とても長い間、お話を伝えていることは日本にとっても世界にとっても重大なことなんだと知ることができました。

２年生の感想より

・どっちが正しいか、どっちが正しくないかの価値観のせいで無理に戦わされて武器も作らされてそれで爆弾で亡くなってしまうのは可哀想だし、自分が被爆者だったらと考えるとゾッとするし、いろんな人と共存しないといけないからこれから人間性も人間関係も強めていきたいです。

・戦争のことは国語の教科書や本である程度は知っていると思っていたけど、身内の方が被爆されてしまった杉浦さんの話を聴くと、私は全然戦争のことを知らなかったんだなと思いました。沼田さんが日本と戦争をした国へ行き、謝罪をしていたということに衝撃を受けました。命の重さはみんな同じで、「一人一人みんなが大切」だということを教えてもらったので、みんなに平等に優しく接することができるようにしたいと思いました。

・たった一発の原爆で多くの建物が壊れたり、多くの人が亡くなってしまったりしてしまうのが怖いと思った。また、家でも家族と一緒に考えてみたい。

・原爆のことについてあんまり知らなかったから、とても怖いと感じた。亡くなった人の思いも大切にしたい。

３年生の感想より

・この杉浦さんの講演会を聴いて原爆でどれぐらいの人が苦しみ、亡くなってしまったか想像して聴くことができました。原爆の話を聴いていると私の胸も締め付けるような感覚を味わいました。被爆したのにも関わらず、あの距離を歩くのって相当大変だなと思ったし、その距離を歩いた良治さんもすごいなととても感じました。これを機に平和について深く考えていきたいなと思いました。

・一発の原爆で多くの命が奪われたことはとても切ないと思った。でもその被害を海外へ行って伝えようとした人がその国の人から「自分たちの被害ばかり語るな」と言われたということがとても心に残った。日本だけが被害を受けて可哀想だと思っていたけれど、日本は色々な国に攻め込んだりしていたから、原爆は日本以外の国の人からしたら日本を負けさせた兵器という認識だったんだなと思った。

・原爆のお話は何度か聴いたことがあったけれど、杉浦さんのお話を聴いてから自分が思っていたより当時の状態は悲惨だったんだなと思いました。原爆が落とされたのは昔のことでもう自分とは関係ないと思っていたけれど、今地球に撃てる状態にある原爆が約 4000 発あると聴いてびっくりしました。今こうやって過ごしている間にいつ原爆が落ちてくかわからない。幸せなのは当たり前のことではないということがわかったので友達や家族をもっと大事にしていきたいと思います。

・「幸せが一瞬でなくなってしまう」という信じられないことが起こる時代に僕たちは生きています。ロシアとかウクライナとか戦争が起きているところも世界にはあって命がなくなる人たちもいます。僕は今の幸せに感謝しながら生きていきたい。

全校総合探究発表「A 顔グランプリ」のご案内

本校では、総合的な活動の時間を全校縦割りで行っております。今年度は、「全校総合」を「A 顔（えがお）プロジェクト」と銘打ち、「東（A）地域を笑（A）顔にするための探究をしよう」というテーマで活動をしてきました。一年間の活動のまとめとして、これまで各講座で行ってきた探究の成果をポスターセッション方式で発表し合い、互いのよさを認め合う場を設けたいと考えております。保護者、地域の皆さまにも、生徒の探究の様子を知り、感想を伝えていただければと考えております。ぜひ多くの皆さまに、ご参観いただければ幸いです。

「A 顔グランプリ」
（全校総合発表会）

◆１１月１２日（木）

◆１４：１０～１６：３０

◆場所　東中体育館

信州大学教育学部教授谷内祐樹先生にご講評をいただきます。

＊１１月１６日（月）は、学校関係者（保護者の皆さまへの公開はいたしません）に向けて、数学の授業公開を行います。

